

公共 AI ナレッジベース 仕 様 書

Public AI Knowledge Base Specification

Version 1.0

2026 年 5 月

公共 AI ナレッジ研究会

©2026 公共 AI ナレッジ研究会 本文書の無断複写・転用を禁じます。

公共 AI ナレッジ研究会の会員は、運営委員会が別途定める利用規約の範囲で利用することができます。

第 1 章 はじめに

1.1 目的と基本思想

本仕様書は、AI が参照するナレッジを正確に識別して正しい処理を実行できるように、ナレッジを整理・構造化するための「共有財産(データエコシステム)」としてのナレッジベースを定義することを目的とします。

1.2 背景と課題認識

少子高齢化に伴う労働力不足(2040 年問題)に対し、現代の行政運営において、生成 AI や AI エージェントの活用による業務の自動化は、住民サービスの維持・高度化に不可欠です。AI エージェントによる業務自動化が不可欠となっている一方、以下の構造的課題が存在します。

△ AI が参照するナレッジが構造化されておらず、AI がその種類を的確に識別して内容を理解していない場合、誤回答や不適切な業務処理を招くリスクがあります。

1.3 基本思想(Agreement の確立)

人間が暗黙的に理解している「文書の趣旨」や「公開制限」といったナレッジのプロファイルを、カテゴリ分けおよびメタデータとして、AI が理解できるように可視化します。

これにより、人間と AI の間でナレッジの扱いに関する明確な「合意事項(Agreement)」を形成し、RAG を通じた生成 AI による正確な案内、AI エージェントによる正しい処理を実現します。

設計の核心は「人間と AI の合意事項(Agreement)の確立」にあります。ナレッジ(ドキュメント)の内容そのものを標準化するのではなく、その「扱い方」に関する情報をメタデータとして見える化することで、AI が情報の鮮度や公開制限を誤ることなく、正当な根拠に基づいて業務を遂行できるようにしています。

1.4 全体活用イメージ

以下の図は、公共 AI ナレッジベースを中心とした、行政・企業・住民における活用イメージを示します。国・県・自治体が正しい・最新・正統なナレッジをナレッジベースに登録・更新し、MCP や RAG を通じて生成 AI システム、バックオフィス AI エージェント、ワークフローシステム、および企業の生成 AI/AI エージェントへ提供することで、定型業務の自動化と AI による案内・相談・申請受付を実現します。

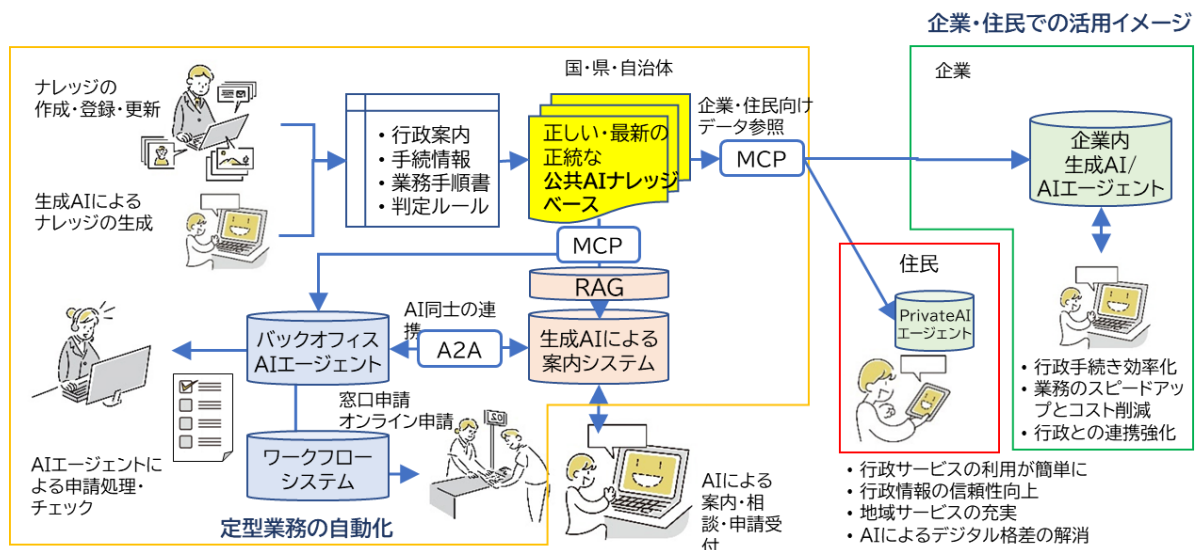


図 1-1 公共 AI ナレッジベース 全体活用イメージ(企業・住民での活用含む)

このシステムによって以下の効果が期待されます。

- ・ 行政: 定型業務の自動化(申請処理・チェック)、AI による案内・相談・申請受付
- ・ 企業: 行政手続き効率化、業務のスピードアップとコスト削減、行政との連携強化
- ・ 住民: 行政サービスの利用が簡単に、行政情報の信頼性向上、地域サービスの充実、AI によるデジタル格差の解消

1.5 本仕様書の構成

本仕様書は以下の章と別紙で構成されます。

文書	内容
本仕様書(本編)	目的・基本思想・用語定義・カテゴリ体系・メタデータ概説・ID 体系・コード仕様概要・ガバナンス・設計思想
別紙 1: カテゴリの分類一覧	ナレッジカテゴリ(4 階層分類コード)の詳細一覧
別紙 2: メタデータ項目一覧	メタデータ全 128 項目の定義・形式・入力ルール一覧
別紙 3: コード仕様書	CC/PC/IC コードの定義・採番ルール・コードリスト

第 2 章 用語の定義

本仕様書で使用する主要な用語を以下のとおり定義します。

2.1 ナレッジの構成と属性

用語	定義
ナレッジ(Knowledge)	データ(数値・事実)、インフォメーション(統計・ニュース)、ルール(手順・方針)、および常識・背景(専門用語・プロフィール)の 4 層で構成される情報の総称。
メタデータ(Metadata) ※ 旧称: タグ	ナレッジの内容説明、対象範囲、公開制限、関係性など、ナレッジ本体に明記されていない「暗黙知」を、AI や人間が情報を正しく扱うために必要な「付随情報」を項目別に記載したもの。
カタログ(Catalog)	メタデータから生成される、ナレッジを効率的に検索・参照するためのインデックス(目録)リスト。

2.2 プレイヤーと役割

用語	定義
組織(Organization)	行政、民間企業、団体などの法人。(現時点では個人は想定外)
オーナー(Owner)	ナレッジを作成・発信した組織。ナレッジの「内容」に対して責任を持つ。
ホルダー(Holder)	ナレッジをナレッジベースに登録した組織。その「信頼性」や「メタデータの正確性」に対して責任を持つ。オーナーとホルダーは同一でも可。
システム管理組織 (System Management Organization)	ナレッジベースおよびカタログシステムの運用・保守を担う組織。

2.3 対象と範囲

用語	定義
サービス(Service)	組織が組織外に提供するサービスのほか、行政の手続きやその内部業務、組織内職員向けの手続きなど、あらゆる業務・作業・手続の全般。
業種・業界 (Industry/Sector)	サービスを提供・利用する組織の分類・分野。公共サービスなど非営利事業も含む。
ターゲット(Target)	ナレッジが想定する受益者(市民、職員、企業など)や、適用される範囲。

2.4 識別とコードルール

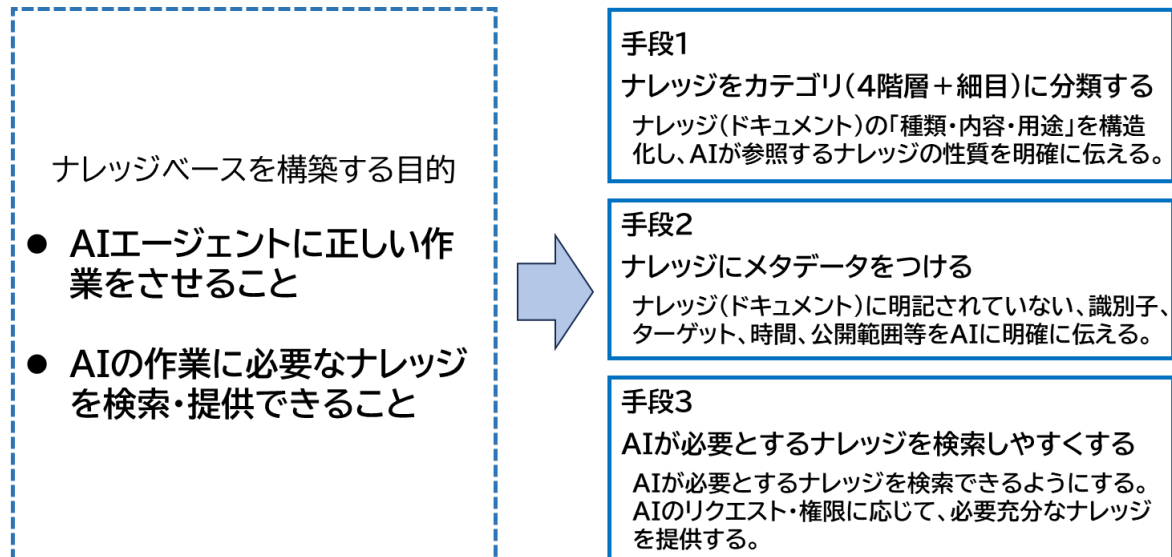
用語	定義
ID(Identifier)	特定の対象を世界で唯一のものとして特定するための、意味を持たない「背番号」。
コード(Code)	業種、言語、地域など、対象を分類・要約した「ラベル」。
ユニーク(Unique)	「1 つの対象に 1 つの名前(ID/コード)」であり、重複や欠落が一切ない状態。
採番	コード、バージョン等を規則に従って発行・登録すること。

第 3 章 ナレッジのカテゴリ体系

3.1 カテゴリとメタデータの目的

「カテゴリ」と「メタデータ」は、AI エージェントが回答や業務を正確に行うための「人間と共通の判断基準」を定義するものです。

その目的は、ナレッジベースを単にファイルを置く場所とするのではなく、AI が「正しい作業」を行い、必要な情報を「確実に検索・提供」できるようにすることにあります。これを実現するために、以下の 3 つの手段を定義します。



「ナレッジ(ドキュメント)に明示されていない暗黙知」を明確にしてAIに伝える。

AIに、人間が自然に認識している、ナレッジ(ドキュメントやデータ)に明記されていない趣旨や適用範囲、諸元を見える化して伝えることで、AIが判断・処理しやすくする。

図 3-1 ナレッジベース構築の目的と 3 つの手段

手段 1: ナレッジのカテゴリ分類(構造化)

ナレッジ(ドキュメントやデータ)を「4 階層+細目」に分類します。

目的・意図: 情報の「種類・内容・用途」を構造化し、AI に対して「今参照している情報がどのような性質のものか(例: 単なる統計データなのか、それとも厳守すべきルールなのか)」を明確に伝えます。

手段 2: メタデータの付与(暗黙知の可視化)

ナレッジ(ドキュメント)本体には直接書かれていない付随情報(識別子、ターゲット(対象者)、有効時間、公開範囲など)を「メタデータ」として追加します。

目的・意図: 人間が文書を読み取る際に自然に理解している「趣旨」や「適用範囲」といった暗黙知を、AI にも理解できる形式で伝えます。これにより、AI の判断・処理の正確性を高めます。

手段 3: 検索の効率化と提供

AI のリクエストや権限に応じて、必要なナレッジを迅速に検索し、提供できる仕組みを整えます。

目的・意図: AI の処理速度を高め、負担を軽減します。

△「ナレッジ(ドキュメント)に明示されていない暗黙知」を明確にして AI に伝える。AI に、人間が自然に認識している、ナレッジに明記されていない趣旨や適用範囲、諸元を見える化して伝えることで、AI が判断・処理しやすくする。

3.2 4 階層構造の概要

ナレッジのカテゴリは「AI の精度を高めること」を主目的として、以下の 4 階層構造に分類します。設計の意図は、AI が「今見ているのは統計データなのか、それとも守るべき法律(ルール)なのか」を峻別させることで、誤った推論を防ぐことにあります。

設計方針: AI と人間がドキュメントの種別や用途・趣旨を明確に判別できるよう、可読性があり、MECE(漏れなくダブリなく)で汎用性のある構造として設計します。また、幅広いユースケースに対応し、かつ異なる組織間での共有・相互利用を想定し、常に包含性があるように拡張していきます。

階層	コード	説明・種類	代表例	AI 活用例	更新頻度
データ層 (Data Layer)	10.0.0.0	観測結果・事実など、文脈を持たない未加工の値や記号	気温、売上、申請書(個票)、画像・音声等	AI が DB から API で参照	リアルタイム
情報層 (Information Layer)	20.0.0.0	データに意味や文脈が付与され、人間や AI が理解・活用できる形のもの	統計書、報道、広報誌、論文・レポート	RAG への取込 / AI による引用・案内	高(日次～週次)
ルール層 (Rule & Policy Layer)	30.0.0.0	意思決定や再利用のために整理・体系化された手順、基準、方針	マニュアル、FAQ、申請書様式、計算式、組織指針	AI エージェントによる業務処理	中(月次～半年)
常識・背景層 (Common Sense & Background)	40.0.0.0	一般常識、業界固有の知識、AI の判断に影響を与える暗黙の前提知識	禁止用語集、専門用語集、ユーザー属性情報	LLM のベースモデル	低(モデル更新時)

用語の整理: この 4 階層すべてを合わせたものが、システムが持つ「知の全体像」としての「ナレッジ(Knowledge)」です。コンテキスト(Context)とは、一般的な LLM において、ユーザーの質問に対してナレッジの 4 階層から抽出・合成された「回答の材料」を指します。

3.3 各階層の詳細

3.3.1 データ層(Data Layer)

【定義】文脈を持たない未加工の値や記号、観測結果、事実などの「生データ」です。そのままでは意味の解釈が難しく、加工・処理が必要な状態のナレッジです。

【具体例】気温や売上などの機械観測データ、記入済みの申請書やアンケート回答などの人間が作成したデータが含まれます。

【活用例】AI がデータベース(DB)から API を通じて直接参照し、リアルタイムに情報を取得するために利用されます。

サブカテゴリ	定義	ドキュメント例
外部作成データ(外部オーナー)	ホルダー組織以外の者(外部オーナー)が作成し、ホルダー組織が受け取り・利用するデータ。ホルダーはデータの内容を変更できない。	給付申請書(個票)、受託契約書、支給決定通知書
自組織作成データ(内外提供)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内外の関係者に提供・送付するデータ。	発注書、委託契約書、オープンデータ
自組織作成データ(内部専用)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内部のみで利用・管理するデータ。外部には提供しない。	職員アンケート(個票)、履歴・プロフィール

3.3.2 情報層(Information Layer)

【定義】データに意味や文脈が付与され、人間や AI が理解・活用できる形になったものです。提供・共有を目的として作成・管理されます。

【具体例】統計情報、ニュース、周知のための案内・告知、レポートや論文などのコンテンツが含まれます。

【活用例】RAG(検索拡張生成)システムへの取り込みや、AI による回答の根拠としての引用・要約に利用されます。

サブカテゴリ	定義	ドキュメント例
外部作成情報(他者オーナー)	ホルダー組織以外の者が作成した情報を、ホルダー組織が取り込んで参照・活用するもの。ホルダーは内容を変更できない。	国発表の統計書、自治体に関する報道記事、補助金のお知らせ
自組織作成情報(内外提供)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内外の関係者に提供・公開する情報。	市報・広報誌、ニュースリリース、市民向け調査報告書
自組織作成情報(内部専用)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内部のみで共有・利用する情報。外部には提供しない。	庁内会議資料、内部統計資料

データセット・報告書など「分析を加えた統計書・報告書」は情報層として扱います。集計前の個票データはデータ層として扱います。

3.3.3 ルール層(Rule & Policy Layer)

【定義】意思決定や再利用のために整理・体系化された、手順や基準に関する知識です。

【具体例】マニュアル、FAQ、申請書の様式(未記入)、計算式、判定基準、組織の指針、事業計画、職人の技やノウハウなどが該当します。

【活用例】AI エージェントが自律的に業務処理(審査や計算など)を行う際の判断基準として機能します。

サブカテゴリ	定義	ドキュメント例
外部作成ルール(他者オーナー)	国・上位機関等が作成したルール・方針を、ホルダー組織が取り込んで適用するもの。ホルダーは内容を変更できない。	法律・省令・募集要領、補助金申請の手順書、認定基準
自組織作成ルール(内外適用)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内外に適用・提供するルール・方針。ホルダーは内容を変更できる。	自治体の募集要領、申請の手引き・FAQ 集、支給計算式
自組織作成ルール(内部専用)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内部のみに適用されるルール・規則。	就業規則・内規、旅費精算手順書、内部 FAQ 集

3.3.4 常識・背景層(Common Sense & Background)

【定義】AI の判断に影響を与える環境的な要因や、特定の分野・業界における暗黙の前提知識です。社会通念上の常識・基礎知識・暗黙の合意事項など、明示されずとも前提として共有されている知識の層です。AI への文脈・背景情報として意図的に付与します。

【具体例】一般常識、放送禁止用語、業界専門用語、季節や天気、ユーザーのイメージ(属性)などが含まれます。

【活用例】LLM(大規模言語モデル)のベースモデルや、特定のコンテキスト(文脈)を理解するための背景情報として活用されます。

サブカテゴリ	定義	ドキュメント例
外部作成の常識・背景(他者)	社会一般・外部機関等が形成した常識・背景	放送禁止用語集、業界用語集、今日の天

サブカテゴリ	定義	ドキュメント例
オーナー)	知識を、ホルダー組織が取り込んで参照・活用するもの。ホルダーは内容を変更できない。	気・気温情報
自組織作成の常識・背景(内外提供)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内外に提供・公開する組織固有の常識・背景情報。	組織概要、組織図、施設情報、プライバシーポリシー
自組織作成の常識・背景(内部専用)	ホルダー組織が自らオーナーとして作成し、組織内部のみで参照・活用する固有の常識・背景情報。	内部用語集・隠語集、想定ユーザーの属性定義

3.4 カテゴリコードの構造(L2 区分)

各階層(L1)はさらに、ナレッジの「提供方向・オーナー区分」に基づいて L2 コードで区分されます。

L2 コード	区分名	定義	例
10(外部作成)	外部オーナー	他者(外部オーナー)が作成し、ホルダーが受け取り・利用するもの。ホルダーは内容を変更できない。	国が作成した法律をホルダー(自治体)が利用
20(内外提供)	内外提供	ホルダー自身がオーナーとして作成し、組織内外の関係者に提供・公開するもの。	自治体が作成した広報誌を市民に公開
30(内部専用)	内部専用	ホルダー自身がオーナーとして作成し、組織内部のみで利用・管理するもの。	職員内規、内部用マニュアル等

カテゴリコードは「L1.L2.L3.L4」の 4 階層ピリオド区切り形式で表します(例:30.10.50.0)。L3・L4 の細分類コード一覧は別紙 1 を参照してください。

詳細なカテゴリ分類コード一覧については「別紙 1:カテゴリの分類一覧」を参照してください。L3・L4 の細分類は約 150 分類が定義されています。

第 4 章 メタデータ

4.1 メタデータの目的

メタデータ項目は、ナレッジ(ドキュメントやデータ)のプロファイル(属性情報)を定義するものです。

人間は文書を読み取る際、その内容だけでなく「誰が書いたか」「いつまで有効か」「誰に見せてよいか」といった背景情報を自然に理解していますが、これらは文書内に明記されていないことも多い「暗黙知」です。AI がこれらを見落として古い情報を提供したり、非公開情報を回答したりするリスクを防ぐために、背景情報をメタデータとして付随させ、AI に明示的に伝える必要があります。

4.2 メタデータの必要性:「暗黙知」の可視化

以下は、人間が自然に理解している「暗黙知」をメタデータとして明示化することで、AI の誤動作を防ぐ仕組みの例です。

暗黙知の例	AI が誤る可能性	メタデータによる解決
この文書はいつまで有効か	古い情報を最新情報として提供してしまう	発効開始・終了日時をメタデータに明記し、AI が日時比較で判断
この情報は誰が見てよいか	非公開の内部情報を外部ユーザーに回答してしまう	公開範囲コード(DIS)と開示許可組織を明記
この情報の正確性は信頼できるか	出所不明の情報を確実な情報として提供してしまう	オーナー組織 ID・AI 作成フラグ・オーナー確認フラグで信頼性を明示
この文書は上位の法令を根拠とするか	根拠となる法令の改訂に気づかず誤った処理を行う	上位・下位ナレッジ ID で依存関係を定義し、改訂時の影響を把握可能に

4.3 メタデータの設計目的

設計目的	内容
AI の判断精度と信頼性の向上	AI が情報の「確度」や「情報源」を識別できるようにし、誤回答(ハルシネーション)を防ぐことを最優先とする。
時系列と更新の管理	ナレッジ本体の更新とメタデータの更新を区別して管理し、常に「最新かつ正しい」情報を参照できるようにする。
ガバナンスとセキュリティ	閲覧可能な範囲やセキュリティ設定をメタデータで指定し、安全な情報の取扱いを実現する。
AI の処理負荷の軽減	AI が文書全体を解析して文脈を推測する手間を省き、構造化されたメタデータを参照させることで、処理を迅速かつ確実に行えるようにする。
組織間連携と再利用	異なる自治体や民間企業の間でナレッジを相互に利用・転用できる「データエコシステム」の基盤とする。
グローバル・拡張性	海外での利用も視野に入れた国際対応や、将来的な項目の追加に耐えうる拡張性を持たせる。
ナレッジ間の関係性定義	法律(上位)と様式(下位)のように、ナレッジ同士の親子関係や関連性を指定し、複雑な行政手続きの構造を AI に理解させる。

4.4 メタデータ項目グループの概要

メタデータは 128 項目(No.1010～2280)から構成され、以下の 11 グループに分類されます。

グループ名	No.範囲	主な項目	項目数
フォーマット識別	1010～1020	メタデータフォーマットバージョン ID、記載言語コード	2
ナレッジの識別	1030～1240	ナレッジ ID、バージョン ID、コンテンツ ID、フォーマット、サイズ、引用 URL、ナレッジ名・概要説明等	22
オーナーの識別	1250～1360	オーナー組織 ID/名称、部署、担当者、AI 作成フラグ、問合せ先等	12
ホルダーの識別	1370～1470	ホルダー組織 ID/名称、部署、担当者、メタデータ作成者識別フラグ等	11
業種・業界・エリア識別	1480～1530	業種・業界コード/名称、対象エリアコード	6
サービス・業務の識別	1540～1690	サービスカテゴリ、サービスコード/名称/概要、ターゲット情報	16
ナレッジベース管理	1700～1760	システム管理組織 ID/名称/部署/問合せ先	7
ナレッジのタイムライン	1770～1860	初版作成日時、更新日時、発効・失効日時、参照・開示許可期間	10
開示の許可範囲	1870～2000	開示許可フラグ、許可組織/部署/個人、著作権情報	14
関連するナレッジ	2010～2240	上位・下位・並列ナレッジの ID/名称/URL(親子・関連関係)	24
証明書	2250～2280	ナレッジ・オーナー・ホルダー・システム管理組織の電子証明書	4

詳細な全項目仕様については「別紙 2：メタデータ項目一覧」を参照してください。

4.5 必須・任意の区分

記号	意味
M (Must)	必ず記載が必要な項目。未記載の場合、そのナレッジはシステムに登録できません。
(空白)	任意記載項目。該当する場合に記載します。

4.6 属性(データ型)の種類

記号	データ型	記載方法
X	文字列(1 バイト)	アルファベット、数字、記号など 1 バイト文字で記入
N	数値	正のアラビア数字(小数点を含む)で記入
Y	日時	ISO 8601 拡張形式(YYYY-MM-DDThh:mm:ss+09:00)で記入
T	テキスト	2 バイト文字または 1 バイト文字で記入(日本語等を含む)
G(n)	ネストグループ	繰り返し(列挙)可能なグループ項目。G1～G9 まで定義
F	ファイル	電子証明書などのファイル

4.7 コード種別

記号	名称	管理主体	説明
CC	Consortium Code	公共 AI ナレッジ研究会	研究会が定義・管理するコード。ナレッジベース全体に共通して使用する ID・コードを規定。
PC	Public Code	国際標準機関・国・業界団体等	ISO 規格・法人番号等の公的コード。グローバルでユニーク、信頼性・メンテナンス性が高い。
IC	Internal Code	各組織(オーナー・ホルダー)	組織内部で独自に管理・付与するコード。組織内でユニークであること。

4.8 ナレッジ間の関係性(ネスト構造)

ナレッジ同士の親子関係・関連関係をメタデータで定義することができます。これにより複雑な行政手続きの構造を AI に理解させます。

グループ	関係	説明	例
G7	上位ナレッジ	本ナレッジの根拠となる上位の法令・通知・指針。上位が更新されると本ナレッジに影響する可能性あり。	法律(子ども・子育て支援法) → 手順書
G8	下位ナレッジ	本ナレッジが更新された場合に影響を受ける手順書・様式等。	手順書 → 申請書様式
G9	並列ナレッジ	本ナレッジの参考として参照すべき同階層のナレッジ。	関連法令・類似手順書

第 5 章 ID 体系とバージョン管理

5.1 5 つの ID の定義と関係

ナレッジの「内容(コンテンツ)」と「属性(メタデータ)」を厳密に区別するため、以下の 5 つの ID を用います。

No.	ID 名	形式	定義
①	ナレッジ ID (KID)	KID-YYYYMMDD-NNNNNNNN	ナレッジのテーマを一意に特定する不変の背番号。内容が更新されても ID は変わらない。
②	ナレッジバージョン ID (KVer)	N.N(例:1.0, 1.1, 2.0)	ナレッジ本文・ルール等の中身が更新された際の版数。
③	メタバージョン ID (MVer)	N(整数, 例:1, 2, 3)	有効期限・公開設定・組織等のメタデータが更新された際の版数。
④	コンテンツ ID (CID)	①KID + "-" + ②KVer	どのナレッジの、どの版の内容かを完全に特定する複合 ID。
⑤	レコード ID (RID)	④CID + "-" + ③MVer	特定の内容に特定の属性がセットされた、DB 上の唯一無二の最小単位。

5.2 複合 ID の構造

以下は「KID-20260401-00000001」というナレッジの、バージョン管理の具体例です。

ID 種別	生成値	補足
①ナレッジ ID	KID-20260401-00000001	2026 年 4 月に初登録した 1 件目のナレッジ
② ナレッジ Ver	1.0 → 1.1 → 2.0	軽微な修正でマイナーを+0.1。大幅変更でメジャーを+1
④ コンテンツ ID(自動生成)	KID-20260401-00000001-1.0	ナレッジ ID + ナレッジ Ver を連結して自動生成
③ メタ Ver	1 → 2 → 3	有効期限・公開設定のみ変更した場合は③のみ+1
⑤ レコード ID(自動生成)	KID-20260401-00000001-1.0-1	DB 上の唯一無二の最小単位。コンテンツ ID + メタ Ver

5.3 ID の活用ルール

シチュエーション	操作	活用例
ナレッジ本文・ルールを修正した	② KVer を+1(新 CID が生成)	返品規定の本文を修正→新 KVer を発行して最新 CID に差し替え
有効期限・公開設定のみ変更	③ MVer を+1(新 RID が生成)	FAQ の本文は変えず有効期限切れのため MVer だけ更新
障害調査・原因特定	⑤ RID を照会して原因を切り分け	回答ミスは CID(内容)の問題か、MVer(設定)の問題か
特定内容の変更履歴を確認	特定 CID に紐づく全 RID を抽出	この FAQ の過去の公開設定変更の履歴を RID 一覧で確認

第 6 章 コード仕様の概要

6.1 コード分類体系

本ナレッジベースで使用するコードは、管理主体によって 3 種類(CC / PC / IC)に分類されます。各コードの詳細な定義・採番ルール・コードリストは「別紙 3:コード仕様書」に定めています。

6.2 CC コード(Consortium Code)一覧

公共 AI ナレッジ研究会が定義・管理するコードです。ナレッジベースを使用するすべての組織が共通して使用します。

略号	コード名	形式	採番例	管理主体
MFVID	メタデータ FVer ID	N.N	1.0	研究会
KID	ナレッジ ID	KID-YYYYMMDD-NNNNNNNN	KID-20260401-00000001	研究会
KVer	ナレッジバージョン ID	N.N	1.0 / 1.1 / 2.0	オーナー
CID	コンテンツ ID	KID-YYYYMMDD-NNNNNNNN-N.N	KID-20260401-00000001-1.0	自動生成
MVer	メタバージョン ID	N(整数)	1 / 2 / 3	ホルダー
CAT	カテゴリコード	NN.NN.NNN.NN	30.10.50.0	研究会
DIS	公開範囲コード	0~3,9(1 文字)	0/1/2/3/9	研究会
AIF	AI 作成フラグ	0~2(1 文字)	0/1/2	研究会

6.3 公開範囲コード(DIS)

コード	名称	公開範囲	使用場面例
0	非公開	組織内のみ	AI エージェントも組織認証なしにアクセス不可
1	内部公開	指定組織グループ限定	複数の連携自治体間など
2	限定公開	指定パートナー(顧客・取引先)	B2B 向けナレッジ等
3	一般公開	制限なし	市民向け FAQ・手続き案内等
9	廃止	参照・使用禁止	過去ナレッジのステータス管理用

6.4 AI 作成フラグ(AIF)

コード	名称	内容	使用場面例
0	人間作成	人間のみが作成・編集	通常の文書・規程類
1	AI 作成	AI のみが作成(人間レビューあり)	AI 生成ドラフト・自動要約

コード	名称	内容	使用場面例
2	共同作成	人間と AI が協同で作成	AI が草案、人間が修正・承認

6.5 PC コード(Public Code)一覧

略号	コード名	規格	形式・例
LANG	言語コード	ISO 639-1	2 文字アルファベット(ja=日本語 / en=英語 / zh=中国語)
ORGID	組織 ID	ISO 3166-1 + 法人番号	[国コード 2 文字]+[法人番号 13 桁] 例: JP9000030010004(横浜市)
INDCD	業種・業界コード	日本標準産業分類(JSIC)	[国コード]-[産業分類 4 桁] 例:JP-9311(地方公務)
AREA	住所・エリアコード	郵便番号/自治体コード	7 桁郵便番号 / 6 桁自治体コード / 11 桁住所コード
LOC	位置ポイントコード	GPS 標準(DD 形式)	緯度,経度(10 進法)例:35.6895,139.6917(東京)

コードの詳細な仕様・コードリスト・採番例については「別紙 3:コード仕様書」を参照してください。

第 7 章 ガバナンスと運用

7.1 プレイヤーの責任分担

本ナレッジベースの運用においては、オーナー・ホルダー・システム管理組織の 3 者がそれぞれ明確な責任を持ちます。

プレイヤー	主な責任	記載するメタデータ
オーナー	ナレッジの内容の正確性・最新性の確保。ナレッジ ID の登録・バージョン管理。	ナレッジ名、概要説明、発効日時、開示範囲、関連ナレッジ等
ホルダー	ナレッジのナレッジベースへの登録・管理。メタデータの正確性の担保。	ホルダー情報、メタデータバージョン、参照期間等
システム管理組織	ナレッジベースシステムの運用・保守。ナレッジの配信・アクセス制御の管理。	システム管理組織 ID/名称/問合せ先

△ オーナーの許諾を得た場合、またはホルダーの責任において、オーナーが行うメタデータ登録をホルダーが代行することができます(原則＝オーナーの許諾、またはホルダーの責任において代行可)。

7.2 メタデータの作成・更新フロー

- ・ ナレッジ本文を作成または更新する
- ・ カテゴリコードを選定する(別紙 1 参照)
- ・ メタデータ項目を記入する(別紙 2 参照)
 - － 必須項目(M)を漏れなく記入
 - － 各項目の属性(X/N/Y/T)に従った形式で記入
 - － コード種別(CC/PC/IC)に応じたコードを参照・選択(別紙 3 参照)
- ・ ナレッジ ID を研究会システムに登録し、ナレッジバージョン ID を採番する
- ・ メタデータバージョン ID を採番し、レコード ID を確定させる
- ・ 定期的にメタデータの内容(発効期限等)を確認・更新する

7.3 セキュリティと開示制御

ナレッジの開示範囲は「公開範囲コード(DIS)」で制御します。開示許可の設定により、組織内のみ・特定パートナー・一般市民など、ナレッジの性質に応じた適切なアクセス制御が可能です。

AI エージェントに対する開示許可は、「開示許可個人(AI)ID」項目を通じて個別に設定することができ、AI の種類・権限ごとに細やかなアクセス管理が実現できます。

7.4 著作権の取扱い

ナレッジに著作権が存在する場合は、「著作権の有無・オープンデータ可否フラグ」および「著作権者 ID/名称」をメタデータに記載します。これにより、AI が著作権のある情報を不適切に転用するリスクを防止します。

第 8 章 設計思想と社会実装

8.1 ナレッジベースの位置づけ

本ナレッジベースは、単にファイルを格納するストレージではありません。AI が「正しい作業」を行い、必要な情報を「確実に検索・提供」できるようにするための、人間と AI の「共有財産(データエコシステム)」です。

機能	目的・意図
ナレッジのカテゴリ分類	AI に対して「今参照している情報がどのような性質のものか(統計データなのか、守るべきルールなのか)」を明確に伝え、誤った推論を防ぐ。
メタデータの付与	人間が文書を読み取る際に自然に理解している「趣旨」や「適用範囲」といった暗黙知を、AI にも理解できる形式で伝え、AI の判断・処理の正確性を高める。
検索の効率化と提供	AI のリクエストや権限に応じて、必要なナレッジを迅速に検索し提供できる仕組みを整え、AI の処理速度を高め負担を軽減する。

8.2 社会実装を見据えた設計

本仕様は、単一の組織内だけでなく、広く社会で活用されることを想定して設計されています。

- ・ 組織間連携:異なる自治体や民間企業の間でナレッジを相互に利用・転用できる「データエコシステム」の基盤となる
- ・ グローバル対応:ISO 規格(言語コード、国コード)を採用し、海外組織との連携も視野に入れた国際対応
- ・ 将来の拡張性:カテゴリ・メタデータ項目は将来的な追加・改訂に耐えうる拡張性を持つ設計
- ・ AI 自動登録への対応:AI 作成フラグ・メタデータ作成者識別フラグにより、AI が自動でナレッジを分類・登録する際の信頼性管理を実現

8.3 改訂履歴

版	日付	変更箇所	作成者
Ver.1.0	2026 年 5 月28日	初版作成	公共 AI ナレッジ研究会

別紙 1 カテゴリの分類一覧

本別紙は、公共 AI ナレッジベース仕様 V1.2 カテゴリの分類一覧(2026 年 5 月版)の内容を本編に統合したものです。カテゴリは「L1.L2.L3.L4」の 4 階層ピリオド区切りコードで表現されます。

△ 本別紙は主要分類の抜粋版です。全 150 分類の詳細については、別途配布の Excel ファイル(公共 AI ナレッジベース仕様 V1.2 カテゴリの分類一覧_20260527.xlsx)を参照してください。

分類コード	L1:層	L2:区分	L3:種別	ドキュメント例
10.0.0.0	データ層(Data Layer)			観測結果・事実など未加工の値や記号の集合
10.10.0.0		外部作成データ(外部オーナー)		他者が作成し受け取り利用するデータ
10.10.10.0			機械計測データ	気象観測データ・降水量データ
10.10.20.0			機械制御コマンド	緊急地震速報
10.10.30.0			仕様書・説明書(受信)	公募仕様書
10.10.40.0			申請(受信)	給付申請書(個票)
10.10.50.0			注文(受信)	指示書
10.10.60.0			契約書(受信)	受託契約書
10.10.70.0			通知・決定通知(受信)	支給決定通知書
10.10.80.0			報告書(受信)	施工完了報告書
10.10.90.0			お知らせ・連絡(受信)	問い合わせ文書
10.10.100.0			アンケート回答(受信)	アンケート回答(個票)
10.10.110.0			データセット(受信)	集計データ
10.20.0.0		自組織作成データ(内外提供)		自身が作成し内外に提供するデータ
10.20.10.0~110.0			(送信系各種)	機械計測/制御/仕様書/申請/注文/契約/通知/報告/連絡/アンケート/データセット(送信)
10.30.0.0		自組織作成データ(内部専用)		自身が作成し内部のみで利用するデータ
10.30.10.0~120.30			(内部系各種)	機械計測/制御/仕様書/申請/注文/契約/通知/報告/連絡/アンケート/データセット(内部)、プロファイル・履歴
20.0.0.0	情報層(Information Layer)			データに意味・文脈が付与され活用できる形のもの
20.10.0.0		外部作成情報(他者オーナー)		他者が作成した情報を取り込んで参照・活用
20.10.10.0			統計	国発表の統計書
20.10.20.0			ニュース・報道	報道記事
20.10.30.0			案内・告知	補助金のお知らせ
20.10.40.10			論文・レポート・教科書	建築設計技術書
20.10.40.20			アート(素材)	イラスト・写真素材
20.20.0.0		自組織作成情報(内外提供)		自身が作成し内外に提供・公開する情報
20.20.10.0~40.20			(外部提供系各種)	統計/ニュース/案内告知/レポート/アート(外部提供)

分類コード	L1:層	L2:区分	L3:種別	ドキュメント例
20.30.0.0		自組織作成情報(内部専用)		自身が作成し内部のみで利用する情報
20.30.10.0～40.20			(内部系各種)	統計/ニュース・情報/案内告知/レポート/アート(内部)
30.0.0.0	ルール層(Rule & Policy Layer)			体系化・再利用・意思決定に使えるナレッジ
30.10.0.0		外部作成ルール(他者オーナー)		国・上位機関等が作成したルール(変更不可)
30.10.10.0			ポリシー・行動指針	子育て応援事業の行動指針
30.10.20.0～20.40			目的・目標・計画(各細目)	事業計画書、目標、アクションプラン、スケジュール
30.10.30.0			目的(単独)	事業目的書
30.10.40.0			役割・責任分担	支給の流れ図
30.10.50.0			ルール・規則	法律・省令・募集要領
30.10.60.0			手順・ワークフロー	補助金申請の手順書
30.10.70.0			マニュアル・FAQ	ガイドライン・FAQ 集
30.10.80.0			様式(未記入)	補助金申請書様式(空白)
30.10.90.10～90.40			計算式・判定基準等(各細目)	課税計算式、審査基準、支給要件、通信仕様
30.10.100.0			経験知・ノウハウ	補助金交付事例紹介
30.20.0.0		自組織作成ルール(内外適用)		自身が作成し内外に適用するルール(変更可)
30.20.10.0～100.0			(外部適用系各種)	ポリシー/目的・計画/役割/規則/手順/マニュアル/様式/計算式等/ノウハウ(外部適用)
30.30.0.0		自組織作成ルール(内部専用)		自身が作成し内部のみに適用するルール
30.30.10.0～100.0			(内部系各種)	ポリシー/目的・計画/役割/内規/手順/マニュアル/様式/計算式等/ノウハウ(内部)
40.0.0.0	常識・背景層(Common Sense & Background)			常識・基礎知識・暗黙の合意事項
40.10.0.0		外部作成の常識・背景(他者オーナー)		社会一般・外部機関が形成した常識・背景知識
40.10.10.10			一般常識	放送禁止用語集・一般常識集
40.10.10.20			環境情報	今日の天気・気温・時事情報
40.10.20.10			業界用語・専門用語	業界地図・業界用語集
40.20.0.0		自組織作成の常識・背景(内外提供)		自身が作成し内外に提供する常識・背景情報
40.20.10.10～10.100			組織プロフィール(各細目)	基本情報、組織図、連絡先、施設情報、事業概要、沿革等
40.30.0.0		自組織作成の常識・背景(内部専用)		自身が作成し内部のみで参照する常識・背景情報
40.30.10.10			専門用語・内部用語	内部用語集・隠語集
40.30.20.10～20.20			想定ユーザーのプロファイル	想定される利用者層の属性、状況・シチュエーション定義

別紙 2 メタデータ項目一覧

本別紙は、公共 AI ナレッジベース仕様 V1_3_メタデータ項目一覧(2026 年 5 月版)の内容を本編に統合したものです。

△ 本別紙は全 128 項目の主要抜粋版です。全項目の詳細については、別途配布の Excel ファイル(公共 AI ナレッジベース仕様 V1_3_メタデータ項目一覧 20260527.xlsx)を参照してください。

凡例：必須欄「M」=必須、空白=任意。属性欄は「データ型/コード種別」の形式。

No.	必須	メタデータ項目名称	属性	記載者	説明・記載方法	記載例
1010	M	メタデータフォーマットバージョン ID	N/CC	研究会	バージョン 1.0 は「1」で固定。以降のフォーマット改訂時に研究会が採番・更新する。	1
1020	M	メタデータ記載言語コード	X/PC	ホルダー	ISO 639-1(2 文字アルファベット小文字)	ja
1030	M	ナレッジ ID	X/CC	オーナー(原則)	KID-YYYYMMDD-NNNNNNNNN の形式(計 20 文字)。研究会システムで採番。	KID-20260401-00000001
1040	M	ナレッジバージョン ID	N/CC	オーナー(原則)	初版 1.0。軽微修正でマイナー+1、大幅変更でメジャー+1。単調増加。	1.0
1050		変更履歴のコンテンツ ID	X/CC	オーナー(原則)	変更履歴ナレッジが存在する場合に指定。	
1060		後継バージョン ID	N/CC	オーナー(原則)	新版を登録した場合、旧版に新版のバージョン ID を記載。	
1070	M	メタデータバージョン ID	N/CC	ホルダー	初版 1。メタデータ更新のたびに+1。コンテンツ ID 変更時は 1 から再採番。	1
1100	M	ナレッジ・カテゴリコード	X/CC	オーナー(原則)	L1.L2.L3.L4 形式(別紙 1 参照)。複数カテゴリの場合はネスト。	30.20.70.0
1180		ナレッジのサイズ	X	オーナー(原則)	バイト単位の整数。動的変化の場合は登録時点の値。	40960
1190		ナレッジの引用 URL	X	オーナー(原則)	直接ナレッジを指す URL。インデックスページは不可。	https://example.com/doc.pdf
1210	M	ナレッジ名	T	オーナー(原則)	同一オーナー組織 ID 内でユニーク。人間と AI 双方が判読できる名称。	こども家庭庁作成「出産・子育て応援交付金手順書」
1230	M	ナレッジの概要説明	T	オーナー(原則)	人間と AI 双方を想定した説明文。メタデータ内容と重複可。	出産・子育て応援給付金支給手続き方法の説明資料
1250	M	オーナー組織 ID	X/PC	オーナー(原則)	ISO 3166-1 alpha-2 + 法人番号 13 桁(JP+13 桁)。グローバルでユニーク。	JP7000012010039
1260	M	オーナー名	T	オーナー(原則)	国税庁法人番号の商号または名称。	こども家庭庁
1310		オーナー内個人(AI)ID	X/IC	オーナー(原則)	ナレッジ作成・責任者の個人 ID。AI 作成の場合は AI コードを記載。	
1340		ナレッジ作成者識別フラグ	X/CC	オーナー(原則)	AI 作成かつ人間未確認の場合にフラグ。人間確認済みは記載不要。	AI_UNVERIFIED
1350	M	オーナー内問い合わせ先	X	オーナー(原則)	実在するメールアドレスまたは URL。	https://www.cfa.go.jp/top
1360		オーナーの確認フラグ	X/CC	ホルダー	オーナーの身元・信頼性を確認した結果。同一の場合は不要。	
1370	M	ホルダー組織 ID	X/PC	ホルダー	ISO 3166-1 alpha-2 + 法人番号 13 桁。オーナーと同一の場合も必ず記載。	JP9000030010004
1380	M	ホルダー組織名	T	ホルダー	国税庁法人番号の商号または名称。	横浜市

No.	必須	メタデータ項目名称	属性	記載者	説明・記載方法	記載例
1460		メタデータ作成者識別フラグ	X/CC	ホルダー	メタデータを AI が作成かつ人間未確認の場合にフラグ。	
1470	M	ホルダー組織内問い合わせ先	X	ホルダー	実在するメールアドレスまたは URL。	ninpu@city.xxx.lg.jp
1480	M	業種・業界コード	X/PC	オーナー（原則）	産業分類コード。複数の場合はネスト可。	JP-9311
1490	M	業種・業界名	T	オーナー（原則）	業種・業界の名称。	直接自治体(市町村)
1520		ナレッジの対象エリアコード	X/PC	オーナー（原則）	郵便番号/自治体コード等。複数エリアはネスト可。	131001
1540	M	サービス・カテゴリコード	X/CC	オーナー（原則）	サービスの一般的分類カテゴリコード。	XXXXXX
1550	M	サービス・カテゴリ名称	T	オーナー（原則）	サービスの一般的分類カテゴリの名称。	子育て応援給付金
1630		サービスの概要説明	T	オーナー（原則）	サービスの概要。メタデータ内容と重複可。	国の出産・子育て応援交付金に基づき出産時に応援給付金を支給。
1700	M	ナレッジベース・システム管理組織 ID	X/PC	システム管理組織	ナレッジベースシステムを運用している組織の ID。	JP9000030010004
1710	M	ナレッジベース・システム管理組織名	T	システム管理組織	ナレッジベースシステム管理組織の名称。	株式会社 Knowledge Base Japan
1760	M	システム管理組織内問い合わせ先	X	システム管理組織	実在するメールアドレスまたは URL。	https://www.example.com
1770	M	ナレッジ初版作成日時	Y	オーナー（原則）	ISO 8601 拡張形式(YYYY-MM-DDThh:mm:ss+09:00)	2024-02-22T12:00:00+09:00
1780	M	メタデータ初版作成日時	Y	ホルダー	ISO 8601 拡張形式	2024-03-10T12:00:00+09:00
1790		ナレッジ更新日時	Y	オーナー（原則）	更新の際は必須。更新時はナレッジバージョン ID も必ず更新。	2024-03-22T12:00:00+09:00
1810		ナレッジ発効開始日時	Y	オーナー（原則）	ナレッジが有効となる開始日時。未記載は参照時点で有効とみなす。	2024-06-22T12:00:00+09:00
1820		ナレッジ発効終了日時	Y	オーナー（原則）	失効日時。廃止の場合は必ず記載。	
1830		ナレッジ参照開始日時	Y	オーナー（原則）	ナレッジベースからの参照を許可する開始日時。	2024-03-29T00:00:00+09:00
1840		ナレッジ参照終了日時	Y	オーナー（原則）	ナレッジベースからの参照を終了する日時。	2025-04-30T23:59:59+09:00
1850		ナレッジ開示開始日時	Y	オーナー（原則）	参照したナレッジ内容を利用者に開示できる開始日時。	2024-04-01T00:00:00+09:00
1860		ナレッジ開示終了日時	Y	オーナー（原則）	参照したナレッジ内容を利用者に開示できる終了日時。	2025-03-31T23:59:59+09:00
1870	M	ナレッジ開示の許可フラグ	X/CC	オーナー（原則）	公開範囲コード(DIS)を指定。0=非公開/1=内部/2=限定/3=公開/9=廃止	2
1880		開示許可組織 ID	X/PC	オーナー（原則）	開示許可先の組織 ID。公開以外の場合は省略不可。	JP9000030010004
1940		開示許可個人(AI)ID	X/IC	オーナー（原則）	開示許可先の個人または AI の ID。AI 指定の場合は AI:を付与。	XXXXXXXXX
1970	M	著作権の有無・オープンデータ可否フラグ	X/CC	オーナー（原則）	著作権の有無とオープンデータとしての利用可否を示すコード。	XX

No.	必須	メタデータ 項目名称	属性	記載者	説明・記載方法	記載例
2010		上位に位置するナレッジ ID	X/CC	オーナー (原則)	本ナレッジの根拠となる法令・通知・指針等のナレッジ ID。	XXXXXXXX
2090		下位に位置するナレッジ ID	X/CC	オーナー (原則)	本ナレッジ更新時に影響を受ける手順書・様式等のナレッジ ID。	XXXXXXXX
2170		並列に位置するナレッジ ID	X/CC	オーナー (原則)	同階層で参照すべき関連法令・類似手順書等のナレッジ ID。	XXXXXXXX
2250		ナレッジ証明書	F	研究会	ナレッジ ID ごとに研究会が発行する電子証明書。	
2260		オーナー証明書	F	オーナー	オーナー組織の電子証明書。	
2270		ホルダー組織証明書	F	ホルダー	ホルダー組織の電子証明書。	
2280		ナレッジベース・システム管理組織の証明書	F	システム 管理組織	システム管理組織の電子証明書。	

別紙 3 コード仕様書

本別紙は、公共 AI ナレッジベースコード仕様書(Ver.1.0)の内容を本編に統合したものです。メタデータ項目で使用するコードの定義・採番方法・コードリストを規定します。

A3.1 コードの分類体系

区分	正式名称	管理主体	特徴・用途
CC	Consortium Code	公共 AI ナレッジ研究会	本研究会が定義・管理するコード。ナレッジベース全体に共通して使用する ID・コードを規定する。
PC	Public Code	国際標準機関・国・業界団体等	ISO 規格・法人番号等の公的コード。グローバルでユニーク、信頼性・メンテナンス性が高いコードを選定する。
IC	Internal Code	各組織（オーナー・ホルダー）	組織内部で独自に管理・付与するコード。他組織との一致は不要だが、組織内でユニークであること。

A3.2 CC コード詳細仕様

A3.2.1 ナレッジ ID(KID)

項目	内容
形式	KID-[登録年 4 桁][月 2 桁][日 2 桁]-[8 桁連番](計 20 文字)
採番ルール	登録年月日は UTC 基準。8 桁連番はシステムが自動採番(00000001～99999999)。一度採番した ID は変更・再利用禁止。内容が更新されても ID は不変。
採番例	KID-20260101-000000001(2026 年 1 月 1 日、1 件目) KID-20260430-00000123(2026 年 4 月 30 日、123 件目)
管理主体	公共 AI ナレッジ研究会 / ナレッジベース・システム管理組織

A3.2.2 カテゴリコード(CAT)

項目	内容
形式	L1.L2.L3.L4(ピリオド区切りの 4 階層)
採番ルール	L1(層):10=データ層/20=情報層/30=ルール層/40=常識・背景層 L2(区分):10=外部作成/20=内外提供/30=内部のみ L3(種別):10 単位で採番 L4(細分類):省略時は 0
採番例	10.0.0.0(データ層・大分類) 30.10.50.0(ルール層・外部作成・ルール) 30.20.60.0(ルール層・内外提供・手順)
管理主体	公共 AI ナレッジ研究会

A3.2.3 公開範囲コード(DIS)

コード	名称	公開範囲	使用場面例
0	非公開	組織内のみ	AI エージェントも組織認証なしにアクセス不可
1	内部公開	指定組織グループ限定	複数の連携自治体間など
2	限定公開	指定パートナー(顧客・取引先)	B2B 向けナレッジ等
3	一般公開	制限なし	市民向け FAQ・手続き案内等
9	廃止	参照・使用禁止	過去ナレッジのステータス管理用

A3.2.4 AI 作成フラグ(AIF)

コード	名称	内容	使用場面例
0	人間作成	人間のみが作成・編集	通常の文書・規程類
1	AI 作成	AI のみが作成(人間レビューあり)	AI 生成ドラフト・自動要約
2	共同作成	人間と AI が協同で作成	AI が草案、人間が修正・承認

A3.3 PC コード詳細仕様

A3.3.1 言語コード(LANG)

項目	内容
規格	ISO 639-1(アルファベット 2 文字小文字)
参照先	https://www.iso.org/iso-639-language-codes.html
主要コード	ja=日本語 / en=英語 / zh=中国語 / ko=韓国語 / fr=フランス語 / de=ドイツ語

A3.3.2 組織 ID(ORGID)

項目	内容
形式	[国コード 2 文字]+[法人番号] 日本(JP)の場合:JP+国税庁法人番号 13 桁 海外の場合:ISO 3166-1 alpha-2+現地法人番号
参照先	法人番号: https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/ ISO 3166-1: https://www.iso.org/iso-3166-country-codes.html
採番例	JP9000030010004(横浜市) JP7000012090004(こども家庭庁) US123456789(米国企業)

A3.3.3 業種・業界コード(INDCD)

項目	内容
形式	[国コード 2 文字]-[産業分類 4 桁] 日本(JP):JP+日本標準産業分類(JSIC)4 桁
主要コード(JP)	JP-9311=地方公務(都道府県、市区町村) JP-9312=市区町村 JP-9321=社会保険・社会福祉 JP-6310=銀行業 JP-7200=医療業

A3.4 IC コード詳細仕様

略号	コード名	推奨形式	採番ルール・備考
DEPT	部署コード	[組織記号]-[部門コード]-[課コード] 例:YKH-05-02	組織内でユニーク。組織再編時は新コードを採番し旧コードとの対応表を管理。
PERSON	個人コード	[組織コード]-[職員番号] 例:YKH-005678	個人情報保護法に基づく適切な取扱いが必要。退職・異動後も再利用禁止。
AICD	作成 AI コード	[AI ベンダー]-[シリーズ]-[バージョン] 例:Anthropic-Claude-claude-sonnet-4-6	AI ベンダー名+モデル正式名称。API モデル文字列の使用を推奨。

A3.5 コード作成例(横浜市 子育て支援給付申請マニュアル)

横浜市こども青少年局が「子育て支援給付申請マニュアル」をナレッジとして登録する場合の各コードの採番例です。

前提:オーナー＝横浜市 / ホルダー＝横浜市 / 種別:市民・事業者向けマニュアル / AI と協同作成

コード種別	メタデータ No.	値の例	採番の根拠・備考
CC:メタデータ FVer	[1010]	1.0	現行フォーマットバージョン
CC:ナレッジ ID	[1030]	KID-20260401-00000001	2026 年 4 月登録、1 件目
CC:ナレッジ Ver	[1040]	1.0	初版登録
CC:コンテンツ ID	[1050]	KID-20260401-00000001-1.0	ナレッジ ID + ナレッジ Ver(自動生成)
CC:メタ Ver ID	[1070]	1	初版メタデータ
CC:カテゴリコード	[1100]	30.20.70.0	ルール層・内外提供・マニュアル
CC:公開範囲コード	[1870]	2	限定公開(市民・事業者向け)
CC:AI 作成フラグ	[1340]	2	職員が AI と協同作成
PC:言語コード	[1020]	ja	日本語
PC:オーナー組織 ID	[1250]	JP9000030010004	横浜市(国税庁法人番号)
PC:業種コード	業種項目	JP-9311	地方公務(市区町村)
PC:位置コード	[1200]	35.4437,139.6380	横浜市役所(緯度,経度)
IC:部署コード	部署項目	YKH-05-02	横浜市こども青少年局・こども家庭課
IC:担当者コード	担当者項目	YKH-005678	担当職員番号(匿名化)
IC:作成 AI コード	AI 項目	Anthropic-Claude-claude-sonnet-4-6	AI 協同作成時のモデルを特定

生成される複合 ID

ID 種別	生成値	備考
①ナレッジ ID(KID)	KID-20260401-00000001	2026 年 4 月 初登録
②ナレッジ Ver	1.0	初版
④コンテンツ ID(CID)	KID-20260401-00000001-1.0	KID+KVer 連結(自動生成)
③メタ Ver	1	初版メタデータ
⑤レコード ID(RID)	KID-20260401-00000001-1.0-1	CID+MVer 連結(自動生成)

有効期限を更新した場合:メタバージョン ID が 1→2 となり、レコード ID は「KID-20260401-00000001-1.0-2」となります。

マニュアルを大改訂した場合:ナレッジバージョンが 1.0→2.0 となり、新しいコンテンツ ID「KID-20260401-00000001-2.0」が生成されます。

A3.6 改訂履歴

版	日付	変更箇所	作成者
1.0	2026 年 5 月	初版正式版リリース	公共 AI ナレッジ研究会

発行 2026 年5月28日

公共 AI ナレッジ研究会事務局

担当 福田次郎

Email : info@trustedfor.ai

©2026 公共 AI ナレッジ研究会 本文書の無断複写・転用を禁じます。

公共 AI ナレッジ研究会の会員は、運営委員会が別途定める利用規約の範囲で利用することができます。